



# 旭区地域福祉保健計画

## 地区別計画



第2期旭区地域福祉保健計画は、「地区別計画」と「区全域計画」とで構成されています。旭区には19の連合自治会町内会エリアがありますが、地区別計画は、地域の実情に応じて、連合自治会町内会や社会福祉協議会、地域支えあいネットワークなど既存の組織を活用しながら、地区ごとに策定されました。

地区別計画は、地域の福祉保健活動をきめ細かく推進するものです。身近な地域（地区）の状況を把握して課題を明らかにし、その解決のために、地域の特性に応じて取り組む活動や取組を盛り込んでいます。

**1 鶴ヶ峰地区**

『現在行っている活動を継続、充実させていき、地域の連携を一層すすめよう』

- ・鶴ヶ峰地区地域支えあい連絡会で、地域活動の情報交換を実施しながら、地域住民、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所が協働して、引き続き地域の課題解決に向けて取り組めます

**2 白根地区**

『ネットワークに支えられるまち』

- ・組織の充実と活性化に向けたネットワークの構築
- ・福祉保健活動に関心と積極的な参加ができる場と、人材発掘の育成の工夫
- ・ふれあいの場をもち、交流の活性化
- ・地域住民が共有できる情報の発信

**3 旭北地区**

- ・都会の中のふる里づくり
- ・防犯防災対策の進んだ町づくり
- ・安心して子育てができる町づくり
- ・地域全体が支え合える町づくり

**4 上白根地区**

- ・地域のネットワークで安心して暮らせるまちをつくらう
- ～多くの住民や団体が活動に参加して安心して暮らせるしくみづくりをすすめる～
- ・仲間づくり、多世代交流をすすめる、活力あるまちをつくらう

**5 今宿地区**

『支えあうまち今宿』を充実させ、『安心できるまち』を目指す

- ・「私の健康カード」、「防災安全カード」を全戸に広げていきます
- ・災害発生時の救援活動の体制整備を行います

**6 川井地区**

『子どもから高齢者までが協力して地域活動を推進します』

- ・元気な高齢者は、自らが地域活動の担い手として活躍できるよう応援します
- ・子どもやその親たちが、高齢者との世代間交流を深め、学校という枠組みを超えた地域活動に参加できるよう働きかけます
- ・福祉保健活動を積極的にPRし住民の理解と協力を図ります

『自然環境を活かした健康づくりを推進します』

**7 若葉台地区**

『若葉台 向こう三軒両隣り』

- ・災害時の助けにつながるコミュニケーション
- ・居場所づくり
- ・ボランティア育成

**8 笹野台地区**

- ・地域福祉活動、共助の実践を「点」から「面」へ拡大、拡充する
- ・有償支援活動の円滑推進に寄与するべく、地元商店会等と連携し、「地域通貨」を創設する
- ・将来的には単位自治会ごと、組（班）ごとに、相互支援を実践できる体制を目指す

**10 希望が丘東地区**

- ・すべての人々が安全・安心して暮らせる町づくりを目指す
- ・地域の人々の多様な交流を展開し、連合自治会・地区社協の取り組む事業への一層の参加をはかる
- ・お互い困ったときに素直に助け合える環境作りを進めて行く

**11 希望が丘南地区**

『地域の人々のつながりを強くします』

『みんなで作るまち、みんなが参加するまちを考えます』

- ・子どもが元気に育つまち
- ・きれいで犯罪のないまち
- ・災害に強いまち
- ・地域ケアプラザが暮らしの拠点になるまち
- ・支えあい活動が活発なまち（サポートキーカードの確立を検討する）

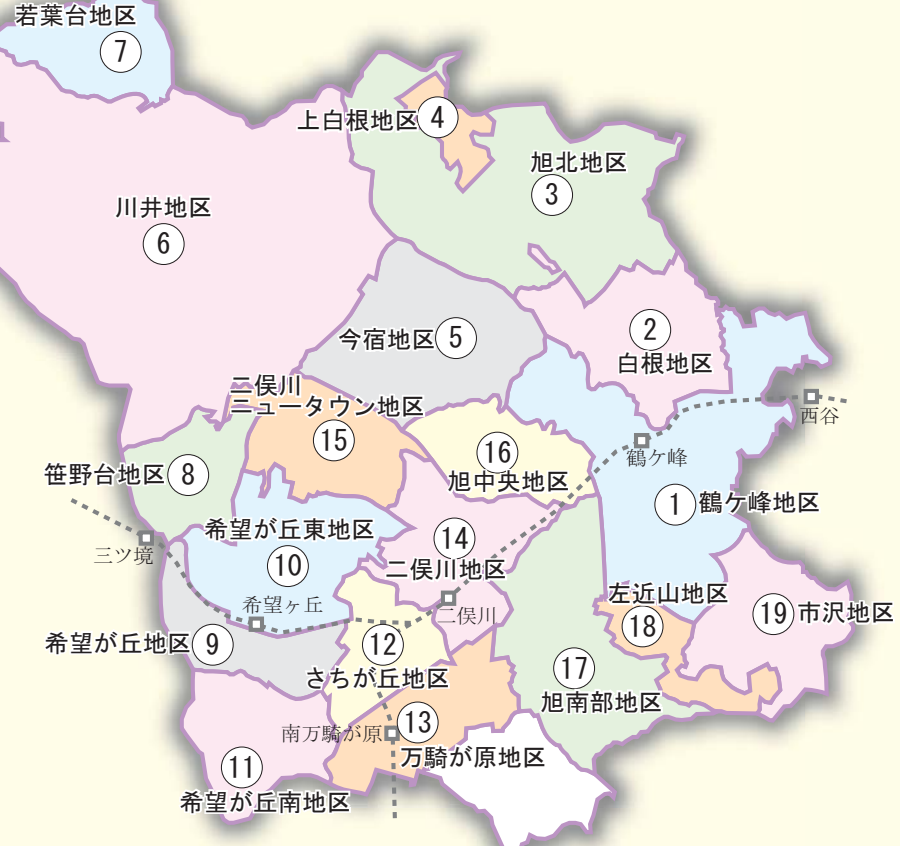
**12 さちが丘地区**

『近所どうしの助け合いと安心・安全な暮らしができる町』

- ・さちが丘地区社会福祉協議会、連合自治会、地域ケアプラザが連携したさまざまな活動を目指す
- ・さちが丘地区の子どもたちが元気でかがやいている
- ・高齢者、老人会の皆さまが地域活動に積極的に参加している

**13 万騎が原地区**

- ・高齢者や地域で困っている人たちの声を、積極的に聴こう
- ・若い世代が地域に溶け込めるような事業を実施して、地域の担い手を育てよう
- ・地域の子ども達に声をかけたりして、子育てをみんなで応援しよう
- ・地域の情報を発信し、気軽に声をかけあって、地域の活動にみんなが参加できるようにしよう
- ・定期的にいろいろな会が集まって助けあひながら活動を続けよう



**14 二俣川地区**

『安心して暮らせる地域づくりの10項目』

- ・あいさつ運動など、地域で顔と顔のみえる関係づくりをすすめる
- ・地域の様々な団体が接点をもって、横につながる
- ・世代をこえた交流の機会をふやす
- ・高齢者が気軽に立ち寄れるサロンのような場づくりをすすめる
- ・子ども・子育てを見守る地域のネットワークづくりをすすめる
- ・障害のある方の把握や、地域との交流をすすめる
- ・地域への関心を高め、ボランティア活動や地域の担い手につながる人づくりをすすめる
- ・地域でのきめ細かな支援に向けた、自治会や地区社協などによる高齢者の情報把握をすすめる
- ・災害時の要援護の方への支援体制づくりをすすめる
- ・活動のPRや的確な情報提供をすすめる

**15 二俣川ニュータウン地区**

『住んでよかったと思える街』

- ・安心・安全な街づくり
- 「私の健康カード」を作成し、全世帯に配布し利用を促進します
- 街の防災を見直すとともに、防災意識の向上をめざします
- ・ふれあいのある街づくり
- 生活支援を拡大します
- ・うるおいのある街づくり
- ニュータウン通り「銀杏愛護会(仮称)」を設立します

**16 旭中央地区**

- ・ひとり暮らし高齢者昼食会に多くの方が参加できるように働きかけていきます
- ・「かみふうせん」に参加できてよかったと感じてもらえるよう取り組みます
- ・健康づくり教室を、さらに充実していきます
- ・「災害時、一人も見逃さない運動」を充実していきます
- ・障害者支援について取り組みを始めます

**17 旭南部地区**

- ・誰もが住みやすい明るいまちづくりを目指す
- ・地域の福祉保健活動を多くの住民が理解して、身近な問題として協力し合う土壌を育成する
- ・活動ごとに5年間の到達目標を策定し、実行にあたっては別途5年間のタイムスケジュールを設定して取り組む

**9 希望が丘地区**

『地域の支えあいを育む活発な交流があるまち』

- ・あいさつの街をPRする（おあしす運動）
- ・地域の集まりで知り合いを増やす
- ・学校を通じて交流を行う
- ・支えあいの輪を地域に広げる

**18 左近山地区**

『ボランティア・参加者等活動を担う人材の発掘、育成』

- ・1期のイベント活動を継続する中で、目的を付加させ、30代、40代の中間層の世代や10代の次世代の人が参加しやすいように、イベント内容の充実を図ります

**19 市沢地区**

『災害に強い、安心感のあるまちづくり・顔の見える関係づくり』

- ・市沢地区らしい取り組みが根づいてきていることを生かし、災害時に地域で支えあう仕組みとしての安全・安心のまちづくりや、地域の交流をさらに充実させます